１．日本語教育部門

日本語教育部門は、本学に在籍する外国人留学生への日本語教育を行なっている。本部門の担当する日本語教育の授業は、大きくは次の 5 種類に分類することができる。

1. 「国際交流科目」としての日本語科目（初級・中級レベル）
2. 「全学共通教育科目」としての日本語科目（中級・上級レベル）
3. 「学部教育科目」としての日本語科目（中級・上級レベル）
4. 「大学院科目」としての日本語科目（上級レベル）
5. 商学研究科の外国人留学生特別コースの日本語科目（上級レベル）

これらの日本語の科目はすべて単位が認定される科目であり、本学の日本語教育の一つの特徴となっている。また、後掲の表に示すように、日本語担当教員が各学部・研究科と連携をとりながら、センターや学部・研究科の枠にとらわれずに授業を担当していることも特徴として挙げることができる。

一方、日本語を学ぶ留学生のカテゴリーは、以下の 5 種類に分かれる。

1. 交換留学生（交流学生）: 交流協定校から派遣される半年・１年の短期留学生
2. 大学院研究生（研究生）: 本学の場合、多くは大使館推薦・大学推薦の国費留学生
3. 学部正規学生（学部生）: 各学部に所属する学部留学生
4. 大学院正規学生（大学院生）: 各研究科に所属する修士・博士の大学院留学生
5. 日本語・日本文化研修留学生（日研生）: 海外の大学学部に所属し、日本語・日本文化を主専攻とする 1 年間の国費短期留学生

このうち、交流学生の一部、国費の研究生の一部は、日本語が初・中級レベルにあり、そうした留学生は、国際交流科目としての日本語科目を中心に、日本語科目を集中して履修する。ICS や IPP など英語で学ぶプログラムを有する大学院に所属する大学院正規生の一部が、ここに加わる場合もある。

それ以外の学生は、日本語が中・上級レベルにあり、自身の専門科目と並行して、全学共通教育科目を中心に、各学期数科目を履修するのが通常である。

なお、留学生用の科目として日本語教育科目以外に、2 種類の日本事情科目クラス、すなわち、全学共通教育科目である一般日本事情Ⅰ・Ⅱと、国際交流科目である Special Seminar on Japanese Language and Culture Ⅰ・Ⅱ（日研ゼミⅠ・Ⅱ）がある。前者では、学部正規生などを対象にしたもので、日本の文学や歴史など、日本文化理解の基礎と

なる内容を扱っており、後者では、日研生に日本研究にかんする多様な研究を紹介し、修了レポート執筆の支援を行っている。

上記の活動についての自己評価は、次の 5 点にまとめられる。

1. **初級教育による成果**：日本語初級レベルの留学生にたいする国際交流科目による集中教育は、一定の成果を上げている。日本語がほとんどできずに来日した大使館推薦・大学推薦の国費研究留学生が、本センターで初級集中教育を受講後、全学共通教育・学部教育科目の日本語科目で実力をつけ、各研究科の入試に合格し、修士号や博士号の取得に至るケースは少なくない。また、留学生センターから国際教育センターへの改組後、交流学生も、初級集中教育の中心的存在として短期間で日本語力を向上させている。
2. **契約教員によるコース運営の安定化**：初級集中教育によるこうした成果の背景には、国際教育センターへの改組による新スタッフの加入が大きい。2010 年 4 月に特任講師が着任して以降、国際交流科目初級日本語コースのコーディネーターの業務を担当したことで、コースの安定的な運営が可能になっている。
3. **学内共同利用機関としての役割の増大**：本部門は、学内の日本語教育を一手に引き受けているが、その役割も多様化している。日研生の受け入れや言語社会研究科での日本語教育者養成もその一つであるが、2012 年度から、商学研究科 MBA（外国人留学生特別コース）の日本語教育支援を開始した。夏学期に週 8 コマの日本語科目を提供し、そのコーディネートを担当している。さらに、国際企業戦略研究科 MBA での日本語教育プログラムの開設を支援し、2012 年度後半からプログラムが開始・運営されている。
4. **社会科学の日本語の研究・教材開発**：「社会科学の総合大学」である本学にあり、社会科学の専門分野を日本語で学習・研究できるよう、社会科学の日本語教育に力を入れている。2011～12 年度には大学戦略推進経費の支援を得、「社会科学の専門語彙・表現教育のための教材開発」を行い、2012 年度末にはその成果を4 冊の教材として刊行した。また、この成果を踏まえ、社会科学の専門語彙・表現の研究は、科研費の支援も得てさらに深化する一方、澁川晶・高橋紗弥子・庵功雄著『留学生のためのジャーナリズムの日本語―新聞・雑誌で学ぶ重要語彙と表現―』スリーエーネットワークも、一橋大学国際教育センター編として 2015 年 6 月に出版されている。
5. **授業改善への取り組み**：本部門では、授業改善にも積極的に取り組んでいる。大学の様式を使用しての授業評価のほかに、20 名以下のクラスではセンター独自の評価シートを用いて、留学生センター発足当時から毎学期授業評価を行っている。また、言語社会研究科の日本語教育学位取得プログラムの大学院生の授業見学を受け入れており、見学レポートを授業改善に役立てている。

１．国際教育センター開講授業

1-1　初中級集中日本語コース

〈コースの概要〉

このコースの日本語学習の目標は、学内外の日常生活に必要な日本語運用能力を獲得すること、および、各参加者の専門の勉学・研究活動に必要な日本語力の基礎を構築することである。

〈各学期報告〉

第 37 期（2016 年度夏学期：2016 年 4 月～9 月）
第 38 期（2016 年度冬学期：2016 年 10 月～2017 年 3 月）

第 37 期は Intensive Basic Japanese（IBJ：初級）、Basic Japanese 1（BJ1：初級前半）、Basic Japanese 2（BJ2：初級後半）、Intermediate Japanese 1（IJ1：中級前半）、Intermediate Japanese 2（IJ2：中級後半）の 5 クラス編成、第 38 期は Intensive Basic Japanese（IBJ：初級）を除く 4 クラス編成であった。そのほかに、交流学生の多い冬学期のみ、Basic Japanese 4-skills practice1,2 で初級 2 コマのクラスを開講した。

Intensive Basic Japanese（IBJ：初級 10 コマ）

受講者数：第 37 期 3 名
担 当 者：松井咲子（コーディネーター）、田中久美子（非常勤講師）、福岡理恵子（非常勤講師）
概　　要：日本語を勉強したことのない学生、あるいは少ししか学習したことのない学生を対象とする。初級後半レベルまでの基礎的な 4 技能を習得し、日常生活を支障なく送れ、かつ中級レベルの学術日本語を学習するための基礎力をつけることが目標である。到達目標は日本語能力試験 N4 程度とする。
教　　材：主となる教材は『げんきⅠ』『げんきⅡ』（ジャパンタイムズ）とそのワークブック。そのほか、4 技能を鍛える市販教材・自主教材を使用
時 間 割：

	Ⅰ	Ⅱ
月	田中	田中
火	福岡	福岡
水	松井	松井
木	福岡	福岡
金	田中	田中

Basic Japanese 1（BJ1：初級前半 5 コマ）

受講者数：第 37 期 8 名、第 38 期 9 名

担 当 者：松井咲子（コーディネーター）、村上まさみ（非常勤講師）、太田陽子、ウリジャ（非常勤講師）、田中久美子（非常勤講師）、福岡理恵子（非常勤講師）

概　　要：日本語を勉強したことのない学生、あるいは少ししか学習したことのない学生を対象とする。日本での日常生活を送るために必要なレベルの日本語の能力を養成することを目的とする。とくに、日本での日常生活を送るために必要なかな、初歩的な文法、語彙を学び、会話力、聴解力を中心とした日本語の能力を養成することを目的とする。到達目標は日本語能力試験 N5 程度とする。なお、文字の学習は Basic Kanji 1（BK1）、読解の練習は Basic Reading 1（BR1）で行う。

教　　材：主となる教材は『げんきⅠ』（ジャパンタイムズ）とそのワークブック。そのほか、4 技能を鍛える市販教材・自主教材を使用

時 間 割：

夏	I
月	松井
火	村上
水	太田
木	ウ（BK1）
金	ウ（BR1）

冬	I
月	田中
火	福岡
水	松井
木	福岡（BK1）
金	田中（BR1）

Basic Japanese 2（BJ2：初級後半 5 コマ）

受講者数：第 37 期 4 名、第 38 期 4 名

概　　要：大学で 150 時間程度日本語を学習し、平仮名と片仮名、150 字程度の漢字、初級文法の前半レベルをマスターした学生を対象とする。日本での学生生活を送るために必要な初級後半の文法、語彙を学び、会話力、聴解力を中心とした日本語の能力を養成することを目的とする。到達目標は日本語能力試験 N4 程度とする。なお、漢字の学習は Basic Kanji 2（BK2）、読解の練習は Basic Reading 2（BR2）で行う。

担 当 者：松井咲子（コーディネーター）、村上まさみ（非常勤講師）、柳田直美、ウリジャ（非常勤講師）、田中久美子（非常勤講師）、福岡理恵子（非常勤講師）

教　　材：主となる教材は『げんきⅡ』（ジャパンタイムズ）とそのワークブック。そのほか、4 技能を鍛える市販教材・自主教材を使用

時 間 割：

夏	Ⅱ
月	松井
火	村上
水	栁田
木	ウ（BK2）
金	ウ（BR2）

冬	Ⅱ
月	田中
火	福岡
水	松井
木	福岡（BK2）
金	田中（BR2）

Basic Japanese 4-skills practice1,2（初級 2 コマ）

受講者数：第 38 期 17 名

担 当 者：太田陽子、栁田直美

概　　要：日本語を勉強したことのない学生、あるいは少ししか学習したことのない学生を対象とする。会話を中心にトレーニングした。

教　　材：主となる教材は『にほんご 45 じかん』（専門教育出版）

時 間 割：

	Ⅱ
月	栁田
水	太田

Intermediate Japanese 1（IJ1：中級前半）

受講者数：第 37 期 8 名、第 38 期 8 名

概　　要：初級の学習を一通り終えた学習者を対象とする。中級前半レベルの力をつけ、コース終了時、中級後半へ進む日本語力（日本語能力テストＮ３レベル）をつける。4 技能を総合的に学ぶクラスであり、技能別クラスは全学共通教育科目としての日本語科目を参照。

担 当 者：松井咲子（コーディネーター）、栁田直美、五味政信

教　　材：主となる教材は『中級を学ぼう　中級前期』スリーエーネットワーク。そのほか、4 技能を鍛える市販教材・自主教材を使用。

時 間 割：

夏	Ⅳ
月	栁田
金	松井

冬	Ⅳ(月)・Ⅲ(金)
月	松井
金	五味

Intermediate Japanese 2（IJ2：中級後半）

受講者数：第 37 期 14 名、第 38 期 9 名

概　　要：中級前半レベルの学習を終えた学習者を対象とする。中級後半レベルの力をつけ、コース終了時、上級前半へ進む日本語力（日本語能力テスト N2 レ

ベル）をつける。4 技能を総合的に学ぶクラスであり、技能別クラスは全学共通教育科目としての日本語科目を参照。

担 当 者：松井咲子（コーディネーター）、五味政信

教　　材：主となる教材は『中級を学ぼう　中級前期』スリーエーネットワーク。そのほか、4 技能を鍛える市販教材・自主教材を使用。

時 間 割：

夏	Ⅲ
月	松井
金	五味

冬	Ⅲ(月)・Ⅳ(金)
月	松井
金	五味

1-2　日本語・日本文化研修留学生プログラム

〈コースの概要〉

文部科学省国費学部留学生のうちで日本語・日本文化を中心に学び、日本語力が上級レベルに達している者を対象としている。研修生は、従来どおり学部ゼミナールに所属し、各自の希望にあわせて日本語科目、全学共通教育科目、学部教育科目を履修する。また、2006 年度 10 月来日学生からは大使館推薦の学生とともに、大学推薦の学生も日研生ゼミナールに参加し、修了レポートの作成を行うことになった。

〈各年度報告〉

2015 年度は、10 名の大使館推薦、5 名の大学推薦の学生が本プログラムに参加し、2016 年 7 月に修了レポートを提出してコースを修了した。コーディネーターは西谷まり。

2016 年度は、2016 年 10 月に 6 名の大使館推薦、2 名の大学推薦の学生が渡日し、本プログラムに参加している。コーディネーターは太田陽子。

２．全学共通教育科目としての日本語科目

全学共通教育科目として開講される日本語関係科目群は、すべて中級・上級レベルであり、「聞く」「話す」「読む」「書く」という四技能にわたる。以下に各科目の担当者、コマ数、対象（特に明記しない限り留学生を対象とする）、内容、総時間数などを表にして記す。

2-1　学部留学生対象の日本語・日本事情科目

「日本語 A／B」は、日本人学生における「初修外国語」としての必修科目枠を使い、学部 1 年の留学生を対象に開講した科目で、初修レベルではなく、上級の中でもきわめて高いレベルをあつかう。「一般日本事情Ⅰ／Ⅱ」は、学部生を中心に、上級後半の学習者を広く対象としている。これらは、狭義の「日本語・日本事情科目」と呼ばれるものである。

2015 年度の非常勤講師は、三枝令子であった。

表 1：日本語・日本事情科目

科目	担当者	コマ数	対象	授業内容・到達目標
日本語 A	夏学期：五味・庵	週 2 コマ 60 時間	学部 1 年	社会科学の勉学に必要な日本語能力を総合的に養成する。特に、教科書などを正確に読みこなし、講義を聞いて理解する訓練を行う。
日本語 B	冬学期：柳田・太田	週 2 コマ 60 時間	学部 1 年	文章を批判的に読む力、自らの意見を書く力、ディスカッションやプレゼンテーションなどの口頭発信力といった、大学の授業に参加するのに必要な日本語力を養成する。
一般日本事情Ⅰ	夏学期：三枝	週 1 コマ 30 時間	上級後半	日本の作家が書いた、現代を中心とした文学作品を読み、批評し合うことで読解力を養成する。
一般日本事情Ⅱ	冬学期：庵	週 1 コマ 30 時間	上級後半	日本の中世末期から現代までの歴史を概観することを通し、現代日本社会の理解の前提となる歴史的な理解を深める。

2-2　全留学生対象の日本語科目

次の表 2 に掲げる科目は、単位取得が可能な正規科目として、交流学生、研究生、学部生、大学院生、日研生といった、すべてのカテゴリーの留学生がそれぞれのレベルとニーズにあわせて選択、履修している。

クラス編成はプレースメント・テストの結果、学習者それぞれのニーズ等によって決められる。2016 年度の非常勤講師は、安部達雄、高恩淑、幸田佳子、三枝令子、宮部真由美、村上まさみの 6 名であった。

表 2：選択科目

科目	担当者	コマ数	対象	授業内容・到達目標
日本語中級・文章表現Ⅰ	夏学期：松井 冬学期：松井	週 1 コマ 30 時間	中級前半	初級・中級文型を使って短い 1 文がしっかり作れ、段落も構成できるように、文章表現の基礎を学ぶ。
日本語中級・文章表現Ⅱ	夏学期：幸田 冬学期：幸田	週 1 コマ 30 時間	中級後半	長い文を複文で書いたり、複数の文を接続詞や指示詞でなめらかにつないだりして、複雑な内容を適切に表現する力を養成する。
日本語上級・文章表現Ⅰ	夏学期：安部 冬学期：安部	週 1 コマ 30 時間	上級前半	あるテーマについて読者を納得させられる文章を、論理的な文章にふさわしい文体で書く能力を身につける。
日本語上級・文章表現Ⅱ	夏学期：安部 冬学期：安部	週 1 コマ 30 時間	上級後半	文章の目的に合わせてどのように表現するか、説明・主張・説得・共感などの多様なレトリックを通して学ぶ。
日本語上級学術文章表現	夏学期：太田 冬学期：三枝	週 1 コマ 30 時間	上級後半	内容に応じて適切な表現や談話構成を選択し、論理的でわかりやすい日本語でレポートや論文を書くことができる力を身につける
日本語中級・口頭表現Ⅰ	夏学期：宮部 冬学期：宮部	週 1 コマ 30 時間	中級前半	初級・中級文型を使って、言いたいことが簡単な表現で確実に伝えられる、口頭表現の基礎力を養成する。
日本語中級・口頭表現Ⅱ	夏学期：柳田 冬学期：三枝	週 1 コマ 30 時間	中級後半	中級文型を使って、言いたいことが複雑な文型で説明できる、TPO に合わせた運用能力を身に付ける。

科目	担当者	コマ数	対象	授業内容・到達目標
日本語上級・ 口頭表現Ⅰ	夏学期 :村上 冬学期 :村上	週 1 コマ 30 時間	上級前半	言いたいことを正確に伝えられるだけでなく、聞き手の感情にも配慮した日本語が使えるよう、待遇表現などを意識して学ぶ。
日本語上級・ 口頭表現Ⅱ	夏学期 :三枝 冬学期 :三枝	週 1 コマ 30 時間	上級後半	日常のあらゆる場面において、聞き手が十分に理解でき、かつ、聞き手が感情を害することがないような洗練された会話能力をつける。
日本語上級 学術口頭表現	夏学期 :柳田 冬学期 :柳田	週 1 コマ 30 時間	上級後半	研究発表などで必要なプレゼンテーション・スキルなど、アカデミックな高度の口頭表現技術を身に付ける。大学院言語社会研究科の専門日本語表現技法Ⅱを兼ねる。
日本語中級・ 読解Ⅰ	夏学期 :柳田 冬学期 :松井	週 1 コマ 30 時間	中級前半	初級文型を使って、易しい語彙で書かれた長めの文章を読み、日本語で読んで考えることに慣れる。
日本語中級・ 読解Ⅱ	夏学期 :五味 冬学期 : 高	週 1 コマ 30 時間	中級後半	新聞・新書など、一般的な内容の生の文章が辞書なしで内容把握ができるようになるために、出現頻度の高い語彙・文型を習得する。
日本語上級・ 読解Ⅰ	夏学期 : 高 冬学期 :五味	週 1 コマ 30 時間	上級前半	文章の難易度や読む目的に合わせて、適切な読解ストラテジーを選択して内容を把握できるようになることを目指す。
日本語上級・ 読解Ⅱ	夏学期 :五味 冬学期 :五味	週 1 コマ 30 時間	上級後半	難解な日本語で書かれた専門書を、時間をかけ、自分の頭で考えて深く読む精読の技術を学ぶ。
日本語上級・ 速読	夏学期 :今村 冬学期 :太田	週 1 コマ 30 時間	上級後半	社会・人文科学分野の新聞・雑誌・書籍をテキストに、生の日本語から必要な情報を批判的に速く読み取る速読の技術を学ぶ。
日本語上級・ 近代文語文講読	冬学期 : 庵	週 1 コマ 30 時間	上級後半	明治、大正期の文語文を精読し、近代の資料に特有な文法や表現を身に付け、近代史の研究など、専門分野の学習に役立てる。
日本語中級・ 漢字語彙Ⅰ	夏学期 :休講 冬学期 :松井	週 1 コマ 30 時間	中級前半	受講者のレベルに合わせて、読みを中心とした中級レベルの漢字力を養成する。
日本語中級・ 漢字語彙Ⅱ	夏学期 :五味 冬学期 :今村	週 1 コマ 30 時間	中級後半	社会科学の各分野の教科書コーパスから抽出された基本的な語彙や概念をテキストやプリントを用いて学ぶ。
日本語中級・ 文法	夏学期 :太田 冬学期 : 庵	週 1 コマ 30 時間	中級	初級文法のうち留学生が誤って使いがちな項目の見直し、および、中級レベルの表現の拡充を通して日本語の表現力・理解力を高める。
日本語上級・ 文法	夏学期 : 庵 冬学期 :太田	週 1 コマ 30 時間	上級前半	留学生が誤って使いがちな文法項目を取り上げて集中的に学び、上級レベルの文法力を確実なものにする。
日本語上級・ 翻訳	本年度休講	週 1 コマ 30 時間	上級後半	主に社会科学系の英語文献を日本語に翻訳することを通して日本語力を向上させると同時に、言語を対照させる目を養う。

2-3　学部生対象の日本語関係科目

「現代日本語論Ⅰ」「現代日本語論Ⅱ」「日本語研究入門」は、留学生を含む、学部生一般を対象とした全学共通教育科目、「共通ゼミ」は、主に留学生を含む学部 3、4 年生を対象とした科目である。

表 3：学部生対象の日本語関係科目

科目	担当者	コマ数	対象	授業内容・到達目標
現代日本語論Ⅰ	本年度休講	週 1 コマ 30 時間	学部生	文法、表記、表現選択などを意識化、対象化して学ぶことによって、文章技術の向上を目指す。
現代日本語論Ⅱ	本年度休講	週 1 コマ 30 時間	学部生	文章構成、文体、修辞技法などを意識化、対象化して学ぶことによって、文章技術の向上を目指す。
日本語研究入門	夏学期：庵	週 1 コマ 30 時間	学部生	母語話者にとっては生得的な、留学生にとっては習得した日本語を、対象化し、そこに存在する「しくみ」について理解することを目指す。
共通ゼミ	通年：庵	週 1 コマ 60 時間	学部 3、4 年	日本語学の方法論を身につける。
共通ゼミ	通年：今村	週 1 コマ 60 時間	学部 3 年、日研生	日本語文法および日本語教育の文献を読み、討議するほか、日研生においては、各自の専門分野における日本語の資料を比較検討し、レポート作成の指導をする。
共通ゼミ	通年：今村	週 1 コマ 60 時間	学部 4 年	日本語文法および日本語教育の文献を読み、討議する。

3．学部教育科目としての日本語科目（留学生対象）

学部教育の枠組みでは、経済学部において「経済の日本語中級」、「経済の日本語上級 1・2」、法学部において「法の日本語」、社会学部において「社会科学の日本語Ⅰ・Ⅱ」がそれぞれ開講されている。いずれも各学部における留学生の専門日本語能力の向上を図るために開設されているが、他学部の学部生、研究生、交流学生、日研生も履修することができる。2016 年度の非常勤講師は、三枝令子であった。

表 4：学部教育科目

科目	担当者	コマ数	対象	授業内容・到達目標
経済の日本語中級	夏学期：西谷 冬学期：西谷	週 1 コマ 30 時間	主に交流学生、研究生（中級後半）	経済学を中心とした社会科学の語彙・表現を、テキストを用いて学習するほか、経済関連の新聞やテレビ番組を通して、経済分野の基礎的な日本語の知識を身に付ける。
経済の日本語上級 1	夏学期：西谷 冬学期：西谷	週 1 コマ 30 時間	主に経済学部の学部 1 年、交流学生、研究生（上級前半）	「経済の日本語中級」より高いレベルのテキストとテレビ番組を用いて、経済分野の基礎的な日本語の知識を身に付ける。
経済の日本語上級 2	夏学期：今村 冬学期：今村	週 1 コマ 30 時間	主に経済学部の学部 2 年、交流学生、研究生（上級後半）	経済学の分野で用いられる語彙・表現を細かなニュアンスまで掘り下げて学習するとともに、筆者の視点や価値判断を読み取れるようにする。
法の日本語	冬学期：三枝	週 1 コマ 30 時間	主に法学部の学部生、交流学生、研究生（上級後半）	『判例で学ぶ日本の法律』（一橋大学国際教育センター）をテキストに、法律や法律学に関する文章を読みこなす力をつける訓練をする。
社会科学の日本語Ⅰ	夏学期：高橋	週 1 コマ 30 時間	主に社会学部の学部生、交流学生、研究生（上級前半）	社会学部で扱われている社会学・歴史学・政治学・教育学・哲学などの専門知識について広く理解させる。

科目	担当者	コマ数	対象	授業内容・到達目標
社会科学の日本語Ⅱ	冬学期：高橋	週 1 コマ 30 時間	主に社会学部の学部生、交流学生、研究生（上級後半）	社会科学・人文科学分野の論文を読み、各論文に出現する論文特有の語彙や表現などをカテゴリー別に整理することで産出に繋げる。

４．大学院科目

大学院科目は、経済学研究科で「経済専門文献日本語」が、言語社会研究科で「専門日本語表現技法Ⅰ」「専門日本語表現技法Ⅱ」がそれぞれ開講されている。科目によっては、留学生に限定せず、日本語を母語とする学生も受講を認めている。

2016 年度の非常勤講師は、筒井千絵であった。

表 5：大学院科目

科目	担当者	コマ数	対象	授業内容・到達目標
経済専門文献日本語	夏学期：今村 冬学期：今村	週 1 コマ 30 時間	主に経済学研究科の修士､博士課程の学生および学部 4 年（上級後半）	経済専門文献の理解における落とし穴に目を向け、言語表現に現れる筆者の視点や立場を読み取る。同時に論文執筆、発表の技術も指導する。
専門日本語表現技法Ⅰ	夏学期：筒井	週 1 コマ 30 時間	主に言語社会研究科第 1 部門の学生	言語・社会・文化を中心としたテーマでの研究発表および論文執筆の指導を行う。
専門日本語表現技法Ⅱ	夏学期：柳田 冬学期：柳田	週 1 コマ 30 時間	主に言語社会研究科第 1 部門の学生	各自の専門テーマでの研究発表の指導を行う。

５．商学研究科の外国人留学生特別コースの日本語科目

商学研究科の外国人留学生特別コースの日本語科目は､HMBA の同コースに入学した新入生が、半年後に専門教育を日本人と同様に受講できるようにするための、夏学期のみの日本語集中教育科目群である。2012 年度に新規開講されたときは受講者が 12 名で、1 クラス開講だったが、2013 年度以降は受講者が倍増したため 2 クラス開講となっている。

2016 年度の非常勤講師は、志賀玲子、澁川晶、松岡弘、宮部真由美、山田京子の 5 名であった。コーディネーターは西谷まり。

表 6：商学研究科 MBA プログラム科目

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
日本語集中講義（留学生プログラム）A1・A2	山田	週 1 コマ 30 時間	コーポレートファイナンスの分野についての基本的な知識を身につけ､各自の研究を進める上で必要となる専門文献の内容を正確に把握する力を養成する。
日本語集中講義（留学生プログラム）B1・B2	澁川	週 1 コマ 30 時間	『日本経済新聞』『日経ビジネス』など、一般に広く読まれる時事的な経済関連の文章を素材に、商学・経済学の専門語彙・表現を身につける。
日本語集中講義（留学生プログラム）C1・C2	志賀	週 1 コマ 30 時間	組織デザイン､競争戦略論に関する文献を読むために必要となるアカデミックな読解力を、文献の精読を通して養成する。

科目	担当者	コマ数	授業内容・到達目標
日本語集中講義（留学生プログラム）D1・D2	西谷	週 1 コマ 30 時間	日本の企業経営・マーケティングなどの分野における現代的なトピックを題材に口頭発表を行い、意見交換を通して、口頭表現で聞き手に分かりやすく伝える力を身につける。
日本語集中講義（留学生プログラム）E1・E2	松岡	週 1 コマ 30 時間	日本の戦前の経済・経営に関わる資料を読み、近代文語文特有の表現に精通するとともに、日本の近代化についての基本的な知識を身につける。
日本語集中講義（留学生プログラム）F1・F2	宮部	週 1 コマ 30 時間	受講者一人ひとりが、自身の研究分野についての研究計画書やレポートを、論文にふさわしい文体と文章構成で書けるようになるための文章作法を学ぶ。
日本語集中講義（留学生プログラム）G1・G2	志賀	週 1 コマ 30 時間	日本経済、企業、ビジネスといったテーマのビデオ映像や聴解教材を視聴することを通し、商学研究科の授業にスムーズに参加できる聴解力を総合的に育成する。
日本語集中講義（留学生プログラム）H1・H2	澁川	週 1 コマ 30 時間	『日経ビジネス』『一橋ビジネスレビュー』などを材料に、専門について書かれた長い文章を短時間で内容を的確に読み取る速読の訓練を行う。

（文責：柳田 直美）